

1 調査の概要

- (1) 対象児童 第6学年児童
 (2) 教科 国語科(A・B)、算数科(A・B)、理科
 (3) 質問紙 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

2 本校の結果 「全国・北海道・伊達市との平均正答率の比較」

	本校の結果 ～全国と比べて～	全国平均正答率 (公立)	北海道平均正答率 (公立)	伊達市平均正答率 (小学校)
国語 A (主として知識)	↑	70.7	70.1	75.0
国語 B (主として活用)	→	54.7	52.7	55.0
算数 A (主として知識)	↘	63.5	62.2	62.0
算数 B (主として活用)	→	51.5	48.7	51.0
理科	↗	60.3	58.8	62.0

※「本校の結果」欄の矢印は、本校の平均正答率と全国の平均正答率の差を表しています。

↑～上回る ↗～やや上回る →～同程度 ↘～やや下回る ↓～下回る

3. 調査からみられる傾向および課題



【国語】

国語Aは、全国平均正答率を上回る結果から、基礎的・基本的な知識や技能は、概ね定着していることがうかがえます。また、国語Bは、全国平均正答率と同程度の結果となりました。

特に、登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉え、優れた叙述について自分の考えをまとめることなどの「読むこと」に関しては、高い正答率となりました。

しかし、修飾語、被修飾語や敬語などの「言語についての知識・理解・技能」の面を、苦手とする児童が多く見られました。また、話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめるなど、「話すこと」「聞くこと」を苦手とする児童も多く見られました。

【算数】

算数Aは、全国平均正答率をやや下回る結果、算数Bは、全国平均正答率と同程度の結果となりました。

特に、平行や垂直などの位置関係や敷き詰められた合同の図形の性質について考えるなど、図形についての「知識・理解」に関しては、高い正答率となりました。

しかし、計算の手順を覚えるだけでなく、数や式の意味を理解し、示された条件に該当する式を立てたり選択したりすることを苦手とする児童が多く見られました。また、グラフの特徴を理解し、棒グラフや帯グラフから問題の解決に必要な情報を取り出して「分類・整理する」ことや、与えられた情報とグラフを「関連付けて解釈する」ことを苦手とする児童も多く見られました。

【理科】

全国平均正答率をやや上回る結果から、基礎的・基本的な知識については、概ね定着していることがうかがえます。特に、人のからだの一部の名称を答えるなど、科学的な思考をする上で必要な言葉や概念についての「知識・理解」に関しては、高い正答率となりました。

しかし、問題文から実験結果の予想や仮説の内容を正しく理解し、科学的な知識を基に実験結果について考える問題や、問題文の内容を的確に理解し、要点を捉えて記述で答える問題など、「科学的な思考や表現」を苦手とする児童が多く見られました。

【児童質問紙】

※特に全国との差が大きかった質問を抽出

○全国と比べて肯定的回答が高かった主な質問

- ・家庭で学校での出来事について話す。
- ・学習場面以外に、1日30分以上読書している。
- ・学校で、地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする活動をしている。
- ・テレビや新聞、インターネットでニュースを見る。
- ・理科の学習で、学習したことを普段の生活に活用したり、新たな疑問を見付けたりしている。

●全国と比べて肯定的回答が低かった主な質問

- ・自分によいと思うところがある。
- ・人の役に立つ人間になりたいと思う。
- ・週末や放課後に、テレビ・DVD・ゲーム・インターネット等を使って過ごすことが多い。
- ・家庭で、平日1時間以上、予習・復習などの勉強をしている。
- ・家庭で、授業の予習や復習をしている。
- ・地域のボランティア活動や、行事に参加している。
- ・算数の勉強が好きで、よくわかる。
- ・自然観察や実験が好きで、おもしろい。

4. 結果を受けての改善点として

この結果は、調査を実施した6年生の結果としてとらえるものではなく、伊達小学校6年間の教育の積み重ねとしてとらえ、各学年での指導について改善と充実を図ることが大切であると考えています。

本校では、今回の結果から明らかになった課題に対して、次のような改善策や手立てを実践しながら、児童の学力向

上に向けて取り組んでいきます。

【学校では…】



◎「学力向上を目指した改善プラン」の作成

今回の学力・学習状況調査の結果で明らかになった成果と課題について、全教職員で共通理解を図ります。その上で、学校全体としての「伊達小学校児童の学力向上」に向けた取組を推進していきます。

◎国語…話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見を比べるなどして考えをまとめる力の向上

今後も、言語に関する事項を含めた基礎的な知識・技能の定着を図ります。また、国語科の学習を中心とした、全ての学習で言語活動を更に充実させます。その中で、子どもたちが相手の話の内容を十分聞き取り、自分の考えと比べ、共通点や相違点、関連したことなどを整理し、自分の考えをまとめることがさらにできるような授業改善に努めます。

◎算数…式の意味を確実に理解し、表や式、グラフなどを用いて数学的に表現する力の向上

今後も、正しく計算できる、図形の性質や定義を理解できるなど、基礎的な知識・技能の定着を図ります。また、式を立てる際には、その式になる理由を明らかにできるように、授業改善に努めます。さらに、複数の情報を整理したり関連付けたりする活動を通して、学んだことや分かったことを図や式、言葉、グラフなどを用いて、相手に伝わるように表現する力の向上を図ります。

◎理科…「生きてはたらく科学的な知識」を基にした、思考力・判断力・表現力の向上

今後も、生活科や理科における観察・実験の学習において、実体験を伴った理解ができるよう、授業改善に努めます。その中で、科学的な知識を基に、考えたことや分かったことを整理したり交流したりする時間を適切に設定し、科学的な判断力や表現力を育てます。また、学習内容を、身近な日常の自然現象と結び付けて考える活動を積み重ねることで、科学的な思考力の向上を図ります。

◎「わかった・できた・たのしい」から「好き」へつながる授業。

児童にとって、「わかる授業」を心掛け、学習内容を確実に定着させ、その内容を活用しながら主体性をもって学習に臨むことができる授業改善に努めます。また、児童が互いに学び合い、高め合うことで理解を深めることができるよう、学習活動を工夫します。日々の授業で「わかった・できた・たのしい」を実感し、学習することが好き、楽しいと感じることができるようになります。

【ご家庭では…】



☆自分で計画を立て、学習に取り組みましょう。

宿題以外の学習で、自分の課題や授業の予習、復習を中心として、家庭での学習の計画を自分なりに立てながら、取り組むように声掛けしましょう。

☆ゆとりある生活リズムを心掛けましょう。

「早寝・早起き・朝ごはん」など、毎日の生活リズムを一定にし、ゆとりある時間を過ごせるようにしましょう。また、テレビの視聴時間やゲーム・インターネットをする時間やルールなど、お子さんとよく話し合い、ご家庭におけるルールを決めておきましょう。また、決めたルールは、しっかりと守る声掛けをしましょう。

☆親子で「読書」してみませんか。

一日短時間からでもいいので、テレビやスマートフォンなどの電子機器を使わず、親子で一緒に読書の時間をとってみませんか。読書を通して、親子のコミュニケーションを図れるだけでなく、お子さんの語彙や言葉の選択肢も増えるなど、学習面の効果も期待できます。

